

北歐4か国の旅

旅の始まり

海外旅行を始めて約20年が経ち、体力・気力も低下して、そろそろ人生の終着駅が近づいてきたので、今のうちにぜひ行っておきたい所と考えを巡らせていると観光の聖域、北歐が思い浮かびました。

アドベンチャー性は求められないけれど、定番の美しい自然を楽しめれば良いかなという思いがありました。

今まで「幸せの国」といえば「ブータン王国」と条件反応のように思っていたのですが、北歐諸国は「幸せを感じる国」のトップ10の常連なんですね。2018年のデータではフィンランドが1位、ノルウェーが2位、スウェーデンが3位、デンマークも12位になっています。ちなみに日本は54位。

それに、日本は輸出立国の王者として高い自意識を持っていたはずですが、日本と北歐4か国を比べてみると実は全て日本が輸入超過なんです。

何故なんだ?? 日本人としてのプライドが許さないぞ!! 早速、現地調査を兼ねて観光旅行に出かけてみることにしました。



SAS（スカンジナビア航空）でデンマークへ

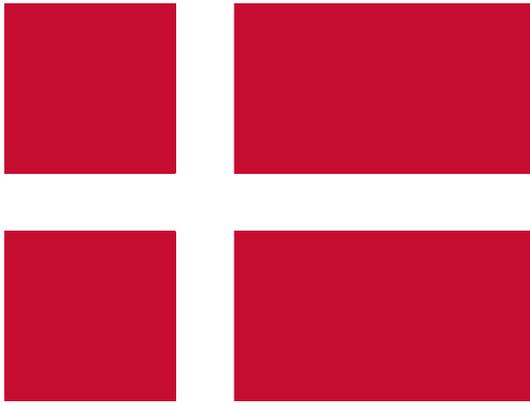
成田からSAS（スカンジナビア航空）のエアバス A340-300 で約 11 時間かけてデンマークの首都コペンハーゲン迄飛びましたが、時差が7時間あって成田を発ったその日の夕方、デンマークの首都コペンハーゲンに到着し、バスでホテルに到着しました。



ところで、機内でのアルコール飲料とソフトドリンクの無料サービスは食事の時に3本までOKで、食後には有料になります。有料になると注文がぼったり減って、フライトアテンダントさんが楽になるからでしょう。なにしろ、介護が必要な感じの熟年アテンダントさんが勤務していましたから。コペンハーゲン空港はガラスを沢山用いたきれいな建物でした。



アンデルセンの国・デンマーク



(デンマーク国旗)



(デンマーク国章)

デンマークは北ヨーロッパのバルト海と北海に挟まれたユトランド半島、その周辺の数々の島を含めた立憲君主制国家で国王はマルグレーテ2世女王です。面積は約4.3万km²で北極圏のグリーンランドもデンマーク領、人口は約560万人、公用語はデンマーク語です。

今のデンマーク、ノルウェー、スウェーデンのあたりは、かつてはヴァイキング（ゲルマン系民族の中のノルマン人）が席卷し、うちデンマーク地方に居住した者はデーン人と呼ばれデンマーク人の祖になりました。

デンマークは歴史の古い国で、世界では日本に次ぐ2番目の君主国家です。首都コペンハーゲンにはシェラン島にあり、北海油田・洋上風力発電によりエネルギーが豊富で、農業（豚肉）やグリーンランドでの鉱業も盛んです。

この季節は北欧諸国の観光書き入れ時で、コペンハーゲン市内が混んでいて、郊外の Hoje Taastrup という町のホテルに宿泊。駅前には面白い形のモニュメントがありました。



夕方到着、朝出発という時間のせいかもしれませんが、大学構内のような未来志向のような街並みに驚かされました。人影はほとんど見当たりません。ホテルはこの建物群の奥にあります。

近くのショッピングモールで水とファンタのような飲み物を買いましたが、42.5 デンマーク・クローネ（約750円）で、いきなり高物価の洗礼を受けました。



コペンハーゲンの町・ニューハウン地区

コペンハーゲンは美しい歴史的建造物が数多く残るデンマークの首都です。

デンマークは第2次世界大戦でナチスドイツに降伏したため、コペンハーゲンの町は戦火から逃れてカラフルな建物が残され、町では条例を作って景観を保っています。

ニューハウンは「新港」という意味だそうです。国王クリスチャン5世によって1670年代に建設されたそうですから長い歴史を持つ町です。飲食店やアンティークショップなどのカラフルな建物が軒を連ねています。アンデルセンはこの一角に家を借りて作品を書いていたそうです。



裏道に入ると、港町の雰囲気を残す TATTOO の店や、鍛冶屋の看板を出した店などが並んでいました。



アメリエンボー宮殿

少し歩いて行くとアメリエンボー宮殿に出ました。ここはデンマーク王室マルグレーテ 2 世女王の冬の王宮で、タイミング良く衛兵の交代を見ることが出来ました。



八角形の広場の周りには4つの宮殿があり、広場の中央にはこの宮殿を造ったフレデリク 5 世の騎馬像がありました。こちらの宮殿には皇太子の家族 (?) が住んでいるという事でした。



人魚姫の像

アンデルセンの童話をモチーフにした人魚姫のブロンズ像がコペンハーゲン港にあります。

人魚姫の像はカールスバーグビール（飛行機の中で飲んだビール）の社長さんがプレゼントしたそうです。

この像はカール・ヤコブセンが制作しましたが、モデルは彼の妻で、彼女の妹が岡田真澄と E.H.エリックのお母さんだそうです。



ストロイエ地区

ストロイエの歩行者天国は世界で初めてできた歩行者天国と言われており、高級ブティックをはじめ、北欧デザインショップやデパート、おしゃれなレストランやカフェなどが連なるショッピングストリートです。

右下の茶色い建物は高級磁器ブランドである「ロイヤル・コペンハーゲン」は240年を迎えた老舗です。



レゴの本社もストロイエにあります。ストロイエの先には市庁舎があります。



この国の通貨はデンマーク・クローネですが、今回の旅行では1か国2日程度の慌ただしい日程だったので、お釣りを現地通貨でもらっても始末に困るので、各国ともずっとカード払いでした（トイレチップまで）。

また、この国のフェイスブック普及率は世界的にトップレベルだそうで、生活の中でフェイスブックが大事なツールの役割を果たしているそうです。

あっという間もなく、デンマーク滞在時間は終了し、ボンバルディア CRJ900 でコペンハーゲン・カストロップ国際空港を出発し、フィヨルドで有名なノルウェーのベルゲンに向かいました。



フィヨルドが美しい国・ノルウェー



ノルウェーは世界幸福度調査で堂々の第1位。一人当たり GDP も第3位なんですね。北海油田・水力発電・漁業・林業・鉱業などが豊かさを支えているようです。

面積は約32万km²、人口 約525万人で、立憲君主制で国王はハラルド5世です。

ノルウェーは貧富の差がない平等な社会だそうで、また、自然が豊かで、自然には逆らわずに大切にしていこうという精神が根強く、ノルウェー人の男性はほとんどがアウトドア派だそうです。

比較的独自路線で欧州連合（EU）には加盟せず、徴兵制を敷いて19才～44才の国民が1年間兵役に就くそうです。

ベルゲン市内へ

2日目の夜9時、白夜に近くまだ明るいうちにフィヨルドで有名なノルウェー第二の都市のベルゲン空港に到着し、空港の傍の Scandic ホテルに宿泊しました。



ホテルで一泊した後、翌朝にはケーブルカーでベルゲン市内を一望できるフロイエン山（標高320m）に登りました。

地元の保育園の子供達といっしょにのんびりと楽しんでいましたが、我々が町へ下りる頃にクルージングのお客さんが大挙してケーブルカーに長蛇の列を作っており、小規模のツアーで早い目にやって来て良かったなと感じた次第でした。



ブリッゲン地区

カラフルな三角屋根の建物がずらりと湾沿いに並ぶブリッゲン地区はハンザ同盟時代の名残を残しており、1979年に世界遺産に登録されました。



ブリッゲン地区に隣接する魚市場を散策しました。魚市場の歴史は長く、1276年にオープンし、1300年代になると、ドイツからのハンザ商人が魚市場のすぐ側にある世界遺産ブリッゲン地区を居住地とし、ベルゲンは干ダラの取引地としても栄えました

タラコ（現地の言葉ではキャビア）のペーストやタラなどが売られていました。



ベルゲン鉄道でミュールダールへ

市内を散策した後、バスで約 100km 離れたヴォスへ移動し、ここでベルゲン鉄道に乗って約 1 時間、ミュールダールに到着しました。



ボス駅にはトロール(妖精)の人形が飾られていましたが、トロールはこの辺りの山の中に住んでいるようです。



フロム山岳鉄道に乗り換えフロムへ

ミュールダールでノルウェー国鉄のフロム山岳鉄道に乗り換え、フロムまでの約 1 時間、左右に広がる溪谷美を楽しみました。



途中、ショースの滝駅で5分間の写真ストップがあり絶景の写真を撮りました。
赤い服を着たトロールが躍っていました。



待望のフィヨルドクルーズ

フロムに到着後、世界遺産のソグネフィヨルドやネーロイフィヨルドを約2時間かけてクルージングしました。



次々と展開されるフィヨルドの景色を堪能しました。



こんな所に村を作って大丈夫かなと心配しましたが、季節の良い時に休暇を楽しむために住んでいるのですね。

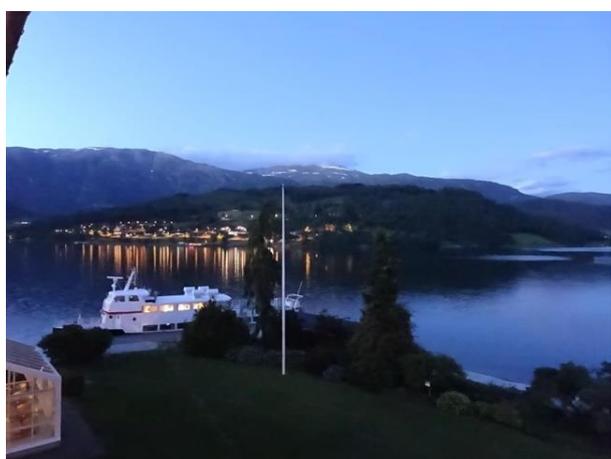


ハダンゲルフィヨルド地区へ

ブラカネスホテルに宿泊しましたが、ホテルの窓から静かなフィヨルドを見ることができ、大満足でした。



ホテルの前にはフィヨルドの夜景、そして朝日を受けた風景が広がります。



ナショナルツーリストルートを通って首都オスロへ

4日目はほぼ一日かけて、「ナショナルツーリストルート」を通り、約 365km、5時間のバス旅行をします。ハダンゲル大橋と、最近完成したツーリスト用の撮影ポイントから滝の景色を眺めました。



バスは標高 1000m 辺りを走っており、車窓から氷河が見えてきました。

ロックフィル式のダムが近くに見えました。ノルウェーは水力発電による豊富な電力があり、エネルギーについては心配なしの国柄で、いちいち照明を消したりしないおおらかさだそうです。



ツーリストルートの最高点あたりにトロール像がありました。

この辺りには湖沼が多く、ノルウェー国民はこの湖沼地帯が大好きで、6月から8月末まで9週間の夏の休暇を貸別荘やキャンピングカーで家族そろって楽しめます。



オスロ市の中央部にある Scandic ホテルに到着しました。

丁度、サッカーワールドカップが行われており、ホテルの前では大勢のファンがコーヒを飲みながらテレビ観戦をしていました。



ホテルでの食事はバイキング方式ですが、山地や海岸でとれるジビエと魚類が中心で、タラ、サケ、ニシン、イワシ、サバなどが並んでいました。本場ノルウェーのサーモンもおいしかったです。私はニシンのマリネが特に気に入りました。きのこ料理も豊富で、山羊のチーズの変わった味も楽しめました。



オスロの王宮と市庁舎

現ノルウェー国王ハラルド 5 世と王妃が住む宮殿で、王宮の周りにはきれいな庭園がありました。

王宮の正面にはこの城の建築を命じた当時のノルウェー国王でスウェーデン国王でもあったカール・ヨハンの騎馬像が立っています。

王宮の近くに市庁舎がありますが、ノーベル賞の創設者アルフレッド・ノーベルはスウェーデンとノルウェー両国の和解と平和を祈念して「平和賞」の授与はノルウェーで行うことにし、この市庁舎で行われています。



カール・ヨハン通り

オスロの目抜き通り、カール・ヨハン通りをぶらぶらしました。

ここは歩行者天国の通りにはおしゃれな店が並んでおり、お茶を楽しんでいました。通りに沿って大聖堂もあり、豊かな街並みでした。



通りを抜けると、モダンな建物が見えてきました。

新オペラ劇場で、屋根の上に登って周りの風景を楽しめるようになっていました。



フログネル公園

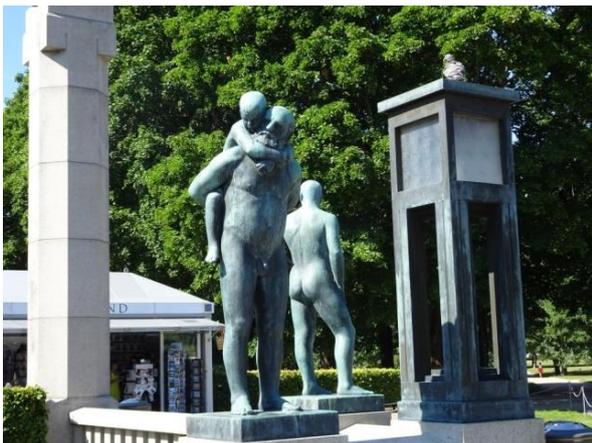
王宮近くのフログネル公園にはグスタヴ・ヴィーゲランの作品 212 点が並んでいました。

ヴィーゲランはオスロ市から展示をする公園と資金援助を受けて公園内の全作品を製作しましたが、作品の説明は一切しなかったそうです。



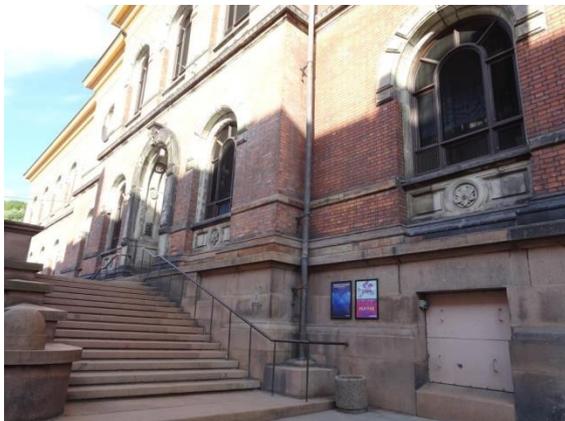
人が生まれて、活動して、老年になり、また再生して子供になるというテーマが多いようです。

「怒りんぼう」という作品が一番人気で、オスロ市のマスコットになっています。



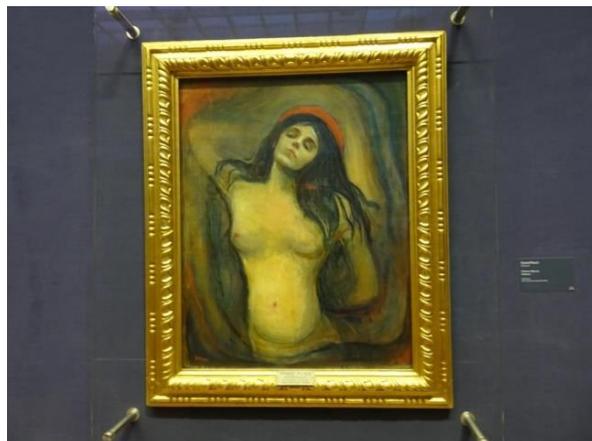
国立美術館

国立にしてはやや質素な美術館という外観でしたが、中に入って圧倒されました。

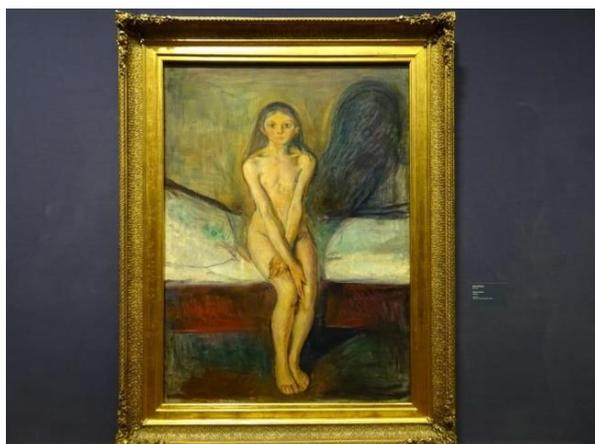


ムンクの作品が「これでもか、これでもか！」というほど展示されていました。

ムンクの「叫び」は、以前はそのまま展示されていましたが、盗難後はガラスケースに入っていました。ムンクのもう一つの名作「マドンナ」、ムンクがフランス留学中に父親を亡くし、鬱になるようになったときに孤独になった時に描いたそうです。



「思春期」は子供から大人への過渡期にある少女を描いた作品で、絵のモデルは一説によると結核により15歳で世を去ったムンクの姉のソフィーエであると言われています。ムンクは81歳で亡くなりますが、本人や家族に様々な苦しみも抱えていたようです。もっと勉強して見に行けばよかったと悔やまれます。



国立美術館の他に市立の「ムンク美術館」にも多数の作品があるそうです。

オスロを出発してストックホルムへ

午後3時、オスロを出発して、1時間の空の旅の後、6時にスウェーデンの首都ストックホルムに到着しました。

ノーベル賞で有名なスウェーデン



(スウェーデン国旗)



(スウェーデン国章)

スウェーデンはノーベル賞で有名ですが、スカジナビア半島の中央及び東側にあり面積 約45万km² (日本の約1.2倍)、人口 約950万人で、なぜか豊かなんですね。立憲君主制で国王はカールグスタフ国王です。

スウェーデンも、北方ゲルマン人であるノルマン人が住んでいた地域で、ヨーロッパからロシアに至るまで「バイキング」として活発に活動し、優れた航海技術で中世の時代にアイスランドや北米に到達するなど、進取の気性に富んでいました。

20世紀になってからは、福祉国家路線と武装中立政策を取り、両大戦にも参戦していません。冷戦時代は西側寄りの中立政策を通し、冷戦後は軍事的非同盟を唱え NATO には参加せず、1995年に欧州連合(EU)には加盟し現在に至っています。

アルフレッド・ノーベルはダイナマイトの開発やアゼルバイジャンでの石油掘削で巨万の富を築き、遺産を「ノーベル賞」の創設に使用させています。

ノーベル社の他にもサーブやボルボなどの自動車や飛行機産業が盛んで、ハイテク産業や林業・農業も盛んで、家具の IKEA やファッションの H&M も有名です。

陸上自衛隊で使用している 84mm 無反動砲カールグスタフもスウェーデン製ですね。

スウェーデンの首都ストックホルム

6日目の朝、ホテルを出発して緑の多い首都ストックホルムの市内観光をしました。

メーラレン湖に面した市庁舎はノーベル賞の晩餐会が開かれる場所として有名です。



「青の間」では1350人が参加する晩餐会が開かれます。



「黄金の間」では舞踏会が開かれます。金箔を貼ったモザイクで壁面が覆われた大広間で、正面にメーラレン湖の女王と呼ばれる女神像が新大陸とアジア大陸の間立っている壁画があります。



王宮・ガムラスタン

王宮では女性の衛兵さんが立っていました。

街の中心ガムラ・スタン（旧市街）をぶらぶらしました。

ノーベル博物館、大広場、大聖堂、ドイツ教会などの街並みが広がっています。



ノーベル博物館の売店の傍に山中伸弥博士のサインの入った椅子が飾られていました。



ドロットニングホルム宮殿

スウェーデン王室が住んでいるドロットニングホルム宮殿は、ストックホルム郊外のローベン島にあって「北欧のヴェルサイユ宮殿」とも呼ばれており、世界遺産です。



宮殿は16世紀に国王ヨハン3世が王妃のために建てた夏の離宮で、王妃の小島という名前のおり歴代の王妃に愛されてきました。今回、日本とスウェーデンの国交150周年記念として内部を見る機会を得ました。



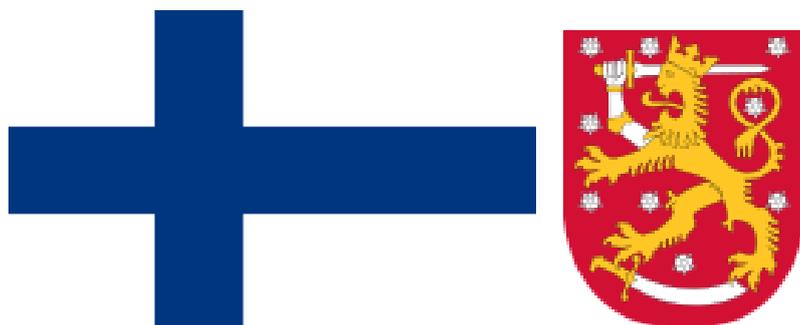
タリクシリヤラインでフィンランドの首都ヘルシンキへ

6日目の夕方、有名な大型客船タリクシリヤラインのセレナード号（58,400 BRT）でフィンランドの首都ヘルシンキへバルト海1泊2日の船旅を楽しみました。

屋上は12階、我々は10階の海側の部屋に宿泊しましたが、船内ではレストラン、カフェテリア、カジノ、売店などの施設も充実していました。



森と湖の国・フィンランド



フィンランドは、人口は約520万人、国土面積は33万平方キロメートルでほぼ日本と同じ広さです。

世界幸福度調査（2018年）では堂々第1位です。何がそんなにいいんでしょうか？

フィンランドは「森と湖沼の国」とも呼ばれ、国土の68%が森で覆われ、10%が湖沼や河川で占められています。フィンランド国土の3分の1は北極圏となっています。

スウェーデン・デンマーク・ノルウェーが立憲君主制をとっているのと異なり、この国は共和制です。

ノキアやLinuxで代表されるハイテク産業や農業・林業が盛んです。ノキアはマイクロソフトの傘下に入りましたが・・・

若い世代で人気随一のムーミンも有名で、エアギター世界選手権もフィンランドで開かれています。

フィンランドの首都ヘルシンキに到着

7日目の朝、スウェーデンのストックホルムから乗船したタリクシリヤラインのセレナーデ号の屋上に出てみると、昨日の賑わいは無く、警備の人がシェパードをつれて見回りをしていました。

海上要塞スオメリンナすれすれのところを通過してフィンランドの首都ヘルシンキ港に向いました。

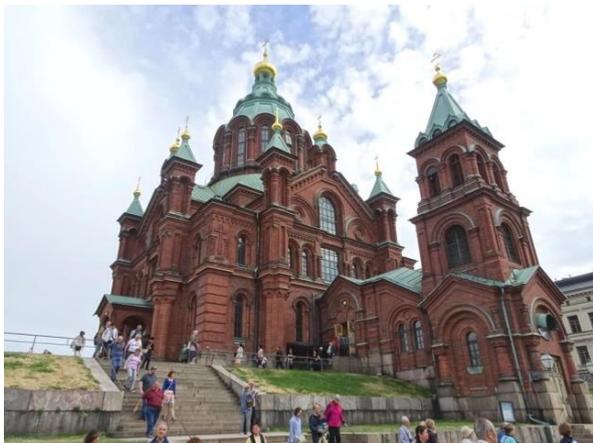


免税店で買い物も済ませ、穏やかだったクルーズも終わり、ヘルシンキ港へ到着です。



ウスペンスキー寺院

赤レンガ造りの教会で、北欧最大のロシア正教教会で、建設当時フィンランドの君主であったロシア皇帝アレクサンドル2世を祝福する記念銘板が大聖堂の背中に置かれているそうです。



元老院広場・ヘルシンキ大聖堂

元老院広場の中央にはロシア皇帝アレクサンドル2世の像があり、その向こうにヘルシンキ大聖堂があります。ヘルシンキ大聖堂はルーテル派の本山です。



ムーミンショップ1号店とマーケット

ムーミンも実はトロールなんだそうです。ムーミンはフィンランドの作家トーベ・ヤンソンが独自に考え出したそうですが、アニメ化にあたっては虫プロや宮崎駿なども加わって、フィンランドに逆輸入されたそうです。



マーケットには果物や野菜や生活用品などが豊富に並んでいました。



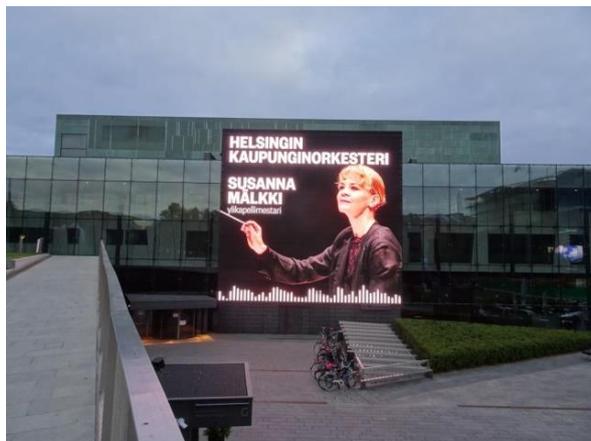
シベリウス公園

シベリウスが交響詩『フィンランディア』を作曲して、後に愛国的な歌詞がつけられ、愛国歌『フィンランディア賛歌』が誕生しました。女性彫刻家エイラ・ヒルトネンがシベリウスを記念するモニュメントを作りましたが、難解すぎるという声を受けて、後になって像も作ったそうです。



シベリウス公園では鴨の親子が楽しそうに遊んでいました。

公園の近くにはフィンランディアホールがあり、夏のシーズンには世界中から多くの演奏家が来てコンサートを開くそうです。



マンネルヘイム元帥像

第1次世界大戦突入前の1939年11月、ソ連はフィンランドへ軍事侵攻し（「冬戦争」あるいは「ソ・芬戦争」）、マンネルヘイム元帥はフィンランド軍を率いて必死の抵抗を試み、ソ連軍は10万人以上の犠牲者を出した。また、1941から1944年の「継続戦争」でも、ソ連の攻撃からフィンランドを救い、大統領になっています。

マンネルヘイム元帥の騎馬像はマンネルヘイム通りに面して国会議事堂付近に建てられています。マンネルヘイム元帥の騎馬像の辺りは政治・経済・文化の中心地になっており、フィンランド国民は、今も独立を守った歴史に誇りを持っているように感じられました。



付近には教会のような外観をした国立博物館がありました。ちょっと重厚な外観の割には、バービー人形の特別展示が行われているようでした。



ヘルシンキ空港からコペンハーゲン空港経由で成田へ

8日目の朝、フィンランドの観光もあっという間に終わってしまい、ヘルシンキからボンバルディアでデンマークのコペンハーゲン空港に移動し、エアバス A340-300 に乗り継いで約10時間、9日目の午前、無事成田空港に帰ってきました。



旅の終わりに

北欧4か国の旅を駆け足でしてきましたが楽しい旅行でした。

私の慌ただしく乏しい見聞の中から、この旅で気が付いたことを書いてみましょう。

なぜ北欧の人たちは自分たちを「しあわせ」だと考えているのでしょうか？

旅行中、いたるところで赤ちゃんを見受けました。赤ちゃんの顔を見ていると「しあわせ」になるのでしょうか。

また、貸別荘やキャンピングカーで家族が仲良く暮らすと「しあわせ」になるでしょう。

教育の無償化や、職業選択の自由度が大きいこともストレスを下げて「しあわせ」につながるようです。

豊かな社会を支えているのは何でしょう？

北欧諸国の豊かな社会は、北海油田の石油・ガス資源や、漁業・農業・林業資源や観光資源で支えられており、しかも人口がほどほどに少ないことも好条件になっています。

中でも、ノルウェーのエネルギー自給率約680%には驚かされます。

また、かつて大活躍したご先祖様から石造りの立派な家などの遺産を引き継いで生活をしているため、その上に積み上げるものが少なくても十分豊かに生活していけるのではないのでしょうか。

北欧は物価が高いって本当？

私の物価の基準はお酒ですが、北欧諸国で食事の時にビールを頼むと1000円以上になります。

高いと感じますが、消費税が25%以上だとか、所得水準そのものが高いたか、アルコール類は健康によくないという理由から高い値段になっているようです。

物価が高くても福祉が充実した国ですから、国民は納得しているのでしょうか。

日本人は北欧諸国から学ぶべきものは何でしょう？

消費税10%程度で苦情を言わず、高負担・高福祉の国に進むべきなんでしょうね。

ノルウェーでは国が豊かで黒字の蓄積がたっぷりあるのに、将来の為に給料の50%近くを税金・保険金などとして天引きで支払っているそうです。

この旅をして最も気に入ったものは何でしょう？

やはり有名なフィヨルドが良かったですね。

この景色を見るために世界から観光客が来ているのが納得できました。